

株式会社ヨシタケ 第82期 株主通信

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日

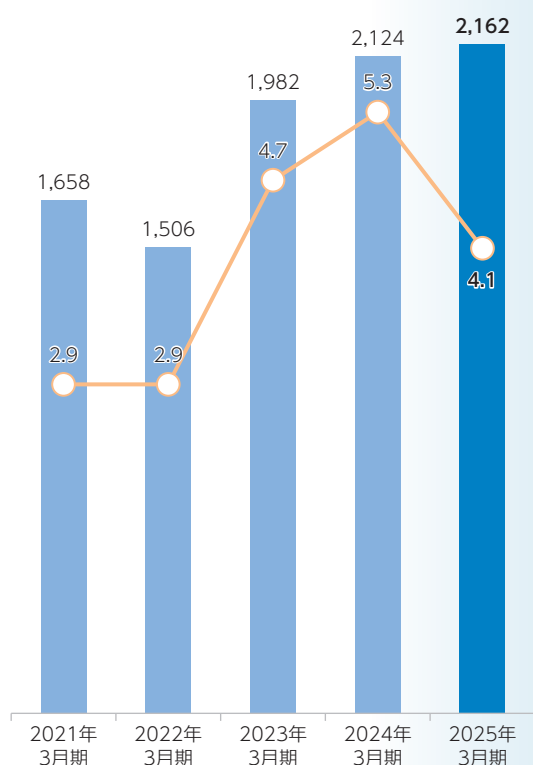
トップメッセージ

株主の皆様には日頃より絶大なご支援を賜り誠にありがとうございます。

さて、2025年3月期であります。日本市場及び世界全体においても成長感には乏しい展開でありました。特に国内の建築物件の数は非常に低位に推移しました。これは幾つかあった大型物件に市場の工数が集中し、反動で中小の物件数が減ったと言われています。しかしながら新年度は大型物件数は減り物件総数は増えるとの予測です。海外については地域によって強弱感はあるものの、欧米は比較的堅調でありましたがアジア地域は冴えない展開でありました。しかし、中国の景気減速が叫ばれている中、当社の中国販売は辛うじて前年比を超えることができました。また、中国市場においては先々への受注の手ごたえは出てきており新年度もシェア拡大を狙ってまいります。一方で、従来不得手であった南米市場や東欧市場の開拓も徐々に進捗してきています。そのような中、当社と致しましては下記のような成果と進捗でありました。

余資運用残高総額および 運用利回り

単位 (百万円)
単位 (%)



- 国内建築物件獲得数は429件（前年比94%）で、その主なものはラピダス千歳新工場、トヨタ明知機械工事、大井町駅周辺広町地区開発、錦三丁目25番街開発、淀屋橋再開発などです。
- 海外建築物件獲得数は71件（前年比151%）で、その主なものは広東邦普循環科技、Hyatt Regency Suzhou、Macao Venetian Arena、Suntory PepsiCo Vietnam Beverage Long An Plant、Irodori Shisei (Thailand)、PT Ecogreen Oleochemicals Batam などです。

補足説明と致しまして、上記の物件数は当社基準で把握できた物件に限り
ます。

- 海外子会社とのシナジー効果を加速させる取り組みにおきましては、マレーシアにおいては大きく前進し、中国、インド、インドネシアについても着実に進捗してきています。引き続き注力してまいります。
- 製品開発につきましては、実績的には未だ低位ながらも、二次電池市場への適合製品の開発、水素関連市場向けの製品開発、流量計測機器の開発なども進んでおり、引き続き注力してまいります。

5. 余資運用の報告

余資運用については、債券、株式、及びファンドにて運用しています。運用総額はおよそ21億円でその内、債権利息及び株式配当の合計は54百万円で運用利回りは4.1%でありました。一方、株式の一部については今期売却を行っており、その売却益は53百万円であり取得原価に対しては227%の運用益でした。引き続きコアビジネスの拡大はもとより利益の最大化を図って参ります。

2025年に入りトランプ政権を発端とする世界中を巻き込んだ関税政策により今後の先行きが非常に不透明な状況となっています。当社も米国との取引がある中である程度の影響を受けるのは確実な状況ではあるものの、現時点における予測は困難ではありますが、当社全体に照らし合わせた場合それほどの致命的な影響はないと考えております。

今後とも株主の皆様には引き続きご支援いただきますよう宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長

山田 哲

国内販売

国内営業は今期も引き続き、それぞれのマーケットセグメントにより、市場ごとの迅速なサポートと提案力の強化および開発力の向上を目指しました。主軸となる設備・建築物への納入、新規顧客の開拓、既存顧客への深耕営業、新市場の開拓という4つのテーマで拡販に努めました。その結果、売上高は前期比3.5%アップとなりました。

今回は新業態であるバイオマスボイラー事業についてご紹介いたします。バイオマスボイラーとは、木質チップ、木質ペレットなどのバイオマス資源を燃料として使用するボイラーのことです。日本はエネルギー資源が少なく、エネルギー自給率が低い国ですが、バイオマスボイラーは国内で調達可能な資源（特に林地残材など）を利用できるためエネルギーの自立に寄与します。また木質チップを燃料とした場合は燃焼時にCO₂を排出しますが、燃料となる植物が生育過程でCO₂を吸収しているため、全体としてプラスマイナスゼロとみなすことができます。したがって従来の石炭や重油を使うボイラーに比べて、CO₂の排出がフリーになるため、再生可能エネルギー政策の中心になりうると注目されています。

私たちはこのバイオマスボイラー事業を通してカーボンニュートラルの実現と脱炭素化に向けたGXを推進いたします。



バイオマスボイラー

	現状ボイラー	バイオマスボイラー
燃料	A重油	ウッドチップ
効率	90%	80%
単位発熱量	9,293 kcal/ L	4,061 kcal/ kg
	38.9 MJ/ L	17.0 MJ/ kg
燃料単価	94 円/ L	12 円/ kg
年間 燃料使用量	3,124,973 L /年	8,044,507 kg /年
燃料金額	293,747 千円/年	96,534 千円/年
削減金額		197,213 千円/年
削減率		67.1%
CO ₂ 排出量	8,602 tCO ₂ /年	free

計算
条件

蒸気：5t/h【実使用量または各ボイラー能力×台数】
圧力：10キロボイラー【8K蒸気として試算】
稼働時間：330日 24時間

2024年4月8日、株式会社ヨシタケは、无锡贝实特机电设备有限公司（WUXI BEST M. & E. EQUIPMENT CO.,LTD）（以下「WXB」）と提携し、販路拡大、特に一般産業、OEM、プロジェクト市場への販売強化を目的として、合併会社である「曜希达凯（無錫）流体技術有限公司」（YOSHITAKE（WUXI）FLUID TECHNOLOGY CO., LTD.）（以下「YSC」）を設立しました。ヨシタケにとって、これは中国初の投資会社となります。登録資本金1,000万元という規模は、世界経済が厳しい状況下においても、中国市場に対する高い信頼性と可能性を示すものです。

この合併会社は、中国におけるヨシタケの広範なブランド力および蒸気設備診断技術と、WXBが過去10年連続で中国国内販売実績トップを誇る販売ノウハウを組み合わせることで、安定した事業運営と拡大を目指します。加えて、長年にわたり販売店を通じた幅広い製品供給を行ってまいりましたが、アフターサービスに対する需要の高まりを受け、現地法人を通じてより一層質の高いサービスを提供できる体制を構築します。

中国市場は広大で、アプリケーションは豊富かつ多様であり、売上増のみならず、技術革新を目指す企業にとって研究開発の理想的な市場となります。その言葉を裏付けるエピソードとして、中国市場特有となる、食用キノコの工業的大規模栽培における温度・湿度管理の重要性に着目し、食用キノコ業界向けの湿り蒸気発生装置を開発しました。農業分野への応用を実現し、中国大手食用キノコ企業の支持を得ており、今後もキノコ市場への導入拡大が見込まれています。今後も蒸気設備診断技術、流体監視システム、流量計計測装置、ドレン回収システム、温水製造装置など、日本の高度な技術を中国に導入し、市場別に最適化されたシステム開発につなげるべく、さらなる研究開発を進めていく計画です。これらの装置は、ボイラー製造、建設、エネルギー産業、医療、食品、石油化学など幅広い分野での活用が期待されています。

YSCは今後も単なるバルブ販売業者に留まらず、イノベーションのベンチマーク企業として、技術レベルとサービス品質の向上に努め、中国の流体技術分野への貢献を続け、中国の産業高度化と発展の新たな潮流をリードするべく活動してまいります。



YSC本社前にて



中国キノコ展示会（ヨシタケブース）



湿り蒸気発生装置

カワキ計測工業は、1948年、川崎機器工業として設立された流量計メーカーであり、2006年にヨシタケの子会社となりました。

従業員36人の小さな会社ながら、長年にわたり培ってきた技術とノウハウを活かし、高精度かつ信頼性の高い流量計を提供することで、社会の発展に貢献してまいりました。

カワキ計測工業の今後の取り組みとしましては、下記の通りです。

◇新エネルギー市場への参入

昨今の脱炭素社会実現に向け、水素、アンモニアなど新エネルギーが注目されていますが、これらは「運ぶ」「貯める」段階において、超低温・高圧にする必要があり、一般的な流量計では対応できないケースが多くあります。

当社が有する「差圧式流量計」はシンプルかつ堅牢で、このような厳しい条件下にも耐えられる構造で、上記仕様にも多くの引合いを頂いております。

◇技術革新、ワイヤレス機能

センサー技術、無線通信などの進化により、流量計は単なる計測機器から、プラント全体の効率向上に貢献するスマートデバイスへと進化しています。リアルタイムでのデータ監視、遠隔操作、予知保全などを可能にするIoTプラットフォームとの連携は、生産性の向上とコスト削減に大きく貢献します。当社は、これらの技術トレンドに対応するため、当社流量計とヨシタケ製Wi-Floを組み合わせたワイヤレス通信機能搭載流量計など、各種IoTプラットフォームとの連携を強化してまいります。

◇クランプオン式超音波流量計の販売

当社は昨年度、超音波流量計UFM-100型を発売致しました。この流量計は、配管の外側に設置し、流体に触れることなく計測可能な流量計で、メンテナンス性や衛生面で優位性を持ち、幅広い産業での需要拡大が見込まれます。

カワキ計測工業は、今後も技術革新と市場の変化に柔軟に対応し、高品質な製品とソリューションを提供することで、企業価値の向上に努めてまいります。



取締役カワキ計測工業株式会社担当
吉野 幸司



差圧式流量計シリーズ
オリフィス流量計ODF-100型



差圧式流量計シリーズ
ベンチュリー流量計VDF-100型



クランプオン式超音波流量計
UFM-100型

内製化の「強み」

ヨシタケでは、製品の一部製造工程を外注から内製化する取り組みを進めております。

これにより、以下のような効果が期待されています。

- ・コスト競争力の向上
- ・品質の安定化と改善
- ・納期の短縮・柔軟な生産対応
- ・技術の蓄積とノウハウ強化
- ・サプライチェーンリスクへの対応
- ・顧客対応力の向上

ヨシタケでは、主要製造工程である鋳造・溶接の内製化を進めるとともに、製品の多様化と高付加価値化を目的に、鋳物材質の幅を広げる取り組みも進行中です。

これまで主に鋳鉄鋳物を取り扱ってまいりましたが、現在は青銅鋳物およびステンレス鋳物の内製トライアルにも着手しております。

また、これまで当社では、溶接工程を外部委託にて対応してまいりました。

しかしながら、より高い品質管理と工程全体の一貫性を確保するため、これまで社内に存在しなかった溶接工程の内製化に着手しました。

今後もヨシタケは、内製体制の強化を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

生産拠点の「強み」

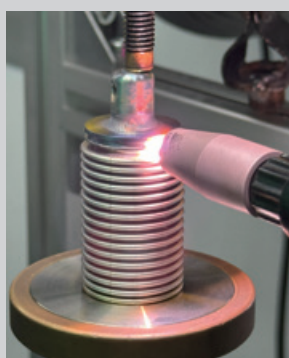
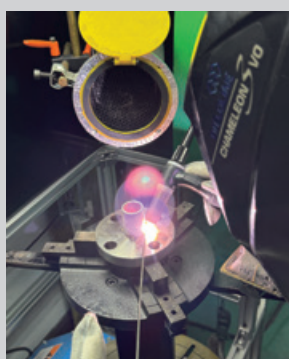
小牧工場、タイ工場での生產品において、現地調達・現地生産により迅速な供給が可能になり、顧客満足度の向上も期待できます。

また、複数拠点によるリスク分散により、天災や政治的リスクなど、特定の国に依存しない体制を築くことができます。

海外販売も年々増加傾向にあります。タイ工場からの出荷により、成長市場における急な需要増にも迅速に対応できる事となりました。



取締役生産本部長
早川 健二



ステンレス溶接



青銅鋳物

ステンレス溶接

青銅鋳物

ステンレス鋳造

企業理念であります「フェアビジネス」を念頭におき、株主、従業員、得意先および仕入先の皆様など事業に関連する全てのステークホルダーの皆様へ配慮した事業活動を行っています。特に将来の事業拡大や事業継続を目標として、M&Aを含めた事業範囲の拡大や新たな事業領域への参入などを常に検討、企画を行っています。

証券取引所や法制からの要求への対応を当然に行ったうえで、株主や投資家の皆様の利益、資産保全を念頭において、売上高や営業利益、当期純利益などの損益目標だけでなく、株主資本に対する利益率を指標の一つとし、現状の水準に満足することなく、資金調達や投資を含め様々な検討を行っております。また、株主の皆様への安定的で継続的な利益還元を重要施策とし、配当性向だけでなく、総合的に検討しております。

近年進めてきました事業展開により取得しました海外子会社の会計システムの一元管理を目指し、現地の法制や基準などの情報収集を進め、連結会計目的だけでなく、より効率的で適正なグループ経営を目指して活動しています。

株主資本を効率的に事業へ投資運用することは当然ですが、継続的に資産を有効に活用すると共に将来における収益力の確保、拡大のため、引き続き所定の範囲で有価証券への投資を行っています。運用収益の基盤となる比較的投資期間が短い債券をベースとしてスタートアップの優良会社を対象としたファンド、債券、株式などを中心に運用を続けております。今後数年において運用結果を得られるものと期待しています。



取締役総務部長 兼 経理部長
島 勝彦



取締役（監査等委員）
水谷 博之



取締役（監査等委員）
林 宏忠



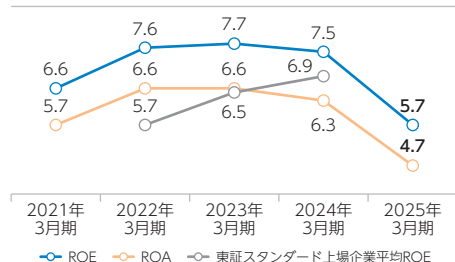
取締役（監査等委員）
加藤 敦

監査等委員会

内部監査室との連携の元、取締役の職務執行の適法性や妥当性を確保するだけでなく、収益確保や資産保全を念頭に活動しています。

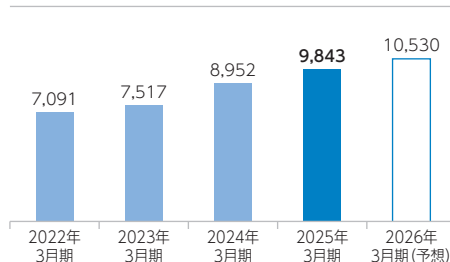
ROE・ROA

単位 (%)



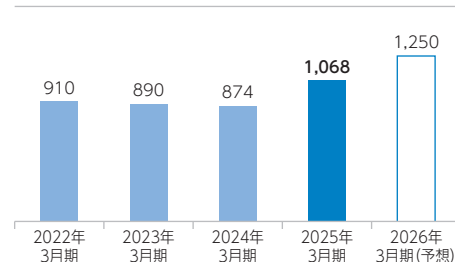
売上高

単位 (百万円)



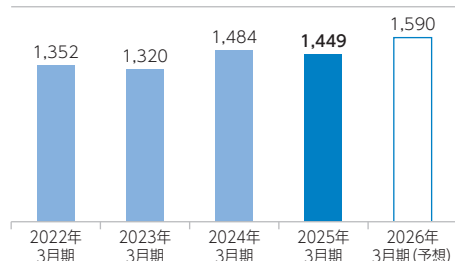
営業利益

単位 (百万円)



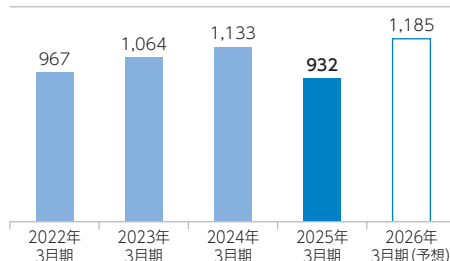
経常利益

単位 (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

単位 (百万円)



1株当たり配当金

単位 (円)

